

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和2年 2月 28日

事業所名 こどもデイサービス まーち♪

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	安全を最優先にし、遊具等を配置している。	
	2 職員の配置数は適切である	5	0	配置基準以上の人員を配置。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	0	玄関から室内までバリアフリーの生活導線ができています。個々の児童が使うロッカーに顔写真を貼り、自分のロッカーがすぐにわかるようにしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	毎朝清掃をし、日中もこまめに換気を行っている。すべり台等の大きな遊具の下にはプレイマットを敷き、安全面に配慮している。床が冷える日には床暖房を使用している。感染予防を目的とし、玩具やドアノブ等のアルコール除菌にも努めている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0	必要に応じて職員間で意見を出し合い、改善が必要な点については早急に改善、実行につなげている。	業務改善後の振り返りとして、各職員からの意見を集め、この方法でよいのか、新たな改善が必要なのかについて検証する場を明確にしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	保護者からのご意見をもとに、業務改善につなげている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	昨年度より実施。ホームページにて公開を行っている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		第三者による外部評価は行っていない。今後も自己評価、保護者向け評価等を通して業務改善につなげていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	法人内研修を年数回開催しており、全員参加している。	外部で開かれる研修にも、一部の職員のみならず全員が順に参加できるように計画していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	アセスメントを通して、子どもの状況や課題等を把握するとともに、保護者の意向の聞き取りも行い、それらを盛り込んだ児童発達支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	統一したアセスメントシートを使用するほか、児童発達支援計画書上段部分に、当該児童の支援による成果や今後の課題、児童の成長の様子等を記載し、それらをもとに掲げた新たな目標がシート1枚で確認できるよう、工夫している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	ガイドラインを基盤とし、より具体的で一人ひとりの発達段階に応じた目標や支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	児童発達支援計画の内容を全職員で周知し、具体的な支援内容について共通理解をしたうえで支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	児童発達支援管理責任者、指導員が提案し、他職員からの意見も取り入れながら行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	様々な活動に参加できるよう、月間計画を立てている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5	0	いずれ迎える就園や就学を見据え、子どもの発達段階に応じて個別活動、集団活動を組み合わせた支援計画を作成するよう努めている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	職員間で口頭での確認を行っている。	より具体的に職員間で確認、共有できるよう取り組んでいく。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	必ずしも振り返りを行う時間を確保しているとは言えないが、できる限り共有するようにしている。	短時間でも、振り返りを行う時間を作り、職員間で共有できるようにしていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	ケア記録に加え、一人ひとりの排泄時間や午睡時間等の記録を残し、今後の支援に活かせるようにしている。	今後もこれらの記録を継続していくとともに、必要に応じてフォーマットを変更し、より分かりやすく記録に残せるようにしていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	6ヶ月に1回は必ず実施するとともに、状況に応じて適宜実施している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	児童発達支援管理責任者が会議前に職員全員から情報収集し、代表して出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	保育所や幼稚園、他児童発達支援事業所、相談支援事業所等との連携を図っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	0	現在、医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、併用利用児が多いため、関係機関との連携を大切にしている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	0	医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、全利用児の主治医の連絡先等については把握している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	サービス担当者会議等を通して、情報共有する機会を頂いている。また長期休暇時には幼稚園の先生が見学に来られたりなど、連携を図ることができている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	学校によっては書面のやりとりで情報共有を行っている。	子ども達が必ず迎える就学時には、これまでの支援内容等についてお伝えしたり引継ぎを行う機会が必要であると考える。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	他事業所と併用利用している子どもが多いため、他事業所との連携を大切にし、支援方法の統一化に努めている。	必要に応じて他事業所と連絡をとり合ったり、会議を開くなどして連携強化していく。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	事業所として交流する機会は現在設けていないが、利用児のなかには保育所や幼稚園に通う子どもが多く、日常的に多くの子どもと関わる環境にある。		
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0	子ども部会主催の研修や、市主催の交流会議などに積極的に参加している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	送迎時等に子どもの様子について保護者とやりとりをするなかで、状況や課題について共有理解ができるよう努めている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	0	5	保護者に対して子どもとの関わり方などについて聞き取りや助言は行っているが、「ペアレント・トレーニング」という名目の支援は行っていない。	外部での「ペアレント・トレーニング」に関する研修への職員の受講について、今後検討していく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	丁寧な説明を心がけている。	今後も丁寧な説明を心がけ、質問等があった際には随時お答えするなどの対応を行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	作成した児童発達支援計画の目標や支援内容等について、保護者と読み合わせを行いながら丁寧な説明を心がけ、同意を得るようにしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	主に送迎時に保護者と顔を合わせる機会があるため、相談等ある際には送迎時にお話を伺うことが多い。相談を受けた際には助言を行うとともに、日々の支援に活かすことにもつなげている。	送迎時における相談対応、助言等に加え、必要に応じて個人面談等を行っていくことも検討していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	保護者会の結成等の支援は行っていないが、もちつき大会等の保護者参加の行事を通して、家族同士が交流できる機会を設けている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	相談や申し入れがあった際には迅速に対応できるよう体制を整えている。	相談受付体制等について重要事項説明書等で保護者にお知らせするとともに、相談や申し入れ等があった際には迅速かつ適切に対応できるよう努めている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	事業所から月1回活動予定やお知らせ等を記載したおたよりを発信。また法人から年4回、活動の様子や情報等を記載した新聞を発信している。	おたよりの内容の見直しを行い、必要な情報を発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	個人ファイル等を鍵付き書庫に保管。文書の廃棄にはシュレッダーを使用している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	日々の送迎時等を活用し、保護者に情報伝達等を行っている。また長期間利用がない子どもや保護者に対しては定期的に連絡をとり、状況を伺ったり情報伝達を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	0	毎年12月に法人全体で開催している「もちつき大会」では、地域住民との交流ができる場となっている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	月1回、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。	マニュアルの作成には至っていない。今後、緊急時、災害、感染症等様々なマニュアルの作成について準備を進めていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	月1回、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。	毎月行う防災訓練について、その様子や成果等について、広報等を通して保護者にお伝えしていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	利用開始前に必ず確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	利用開始前に必ず確認を行い、食物アレルギーのある子どもについては対象となる食材を除去する等の対応を行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	事業所内及び法人内で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	毎年4月に、法人内全職員を対象とした人権擁護・虐待防止研修を開催し、参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	該当する利用者が現在いないため、全員回答なし。		やむを得ず身体拘束を行う場合について、契約時に書面で説明を行っているが、現在対象者はいないため、児童発達支援計画への記載は行っていない。	今後対象者がいる場合には、児童発達支援計画に必要事項を記入し、保護者への説明も十分に行っていく。

○この「児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。